

「就任 5 年目を迎えて」(2021. 4. 18)

「いかに幸いなことか、神に逆らう者の計らいに従って歩まず、罪ある者の道にとどまらず、傲慢な者と共に座らず、主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び、葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。」(詩編 1:1~3)

2017 年 4 月に横手教会に赴任し、あれから 5 年目を迎えました。この 4 年間、長老はじめ教会員の皆さんのお祈り・お支えによって主の憐みにあずかり、横手教会の牧会という恵みの務めに励むことができました。行き届かない点多々あったにもかかわらず、この恵みの務めを続けて託されていること、皆さまのご寛容に心より感謝申し上げます。

さて、4 月 9 日は私の誕生日でした。なんと 70 歳になりました。当日のアパルールの聖書箇所が上掲の詩編 1:1~3 でした。メモがありました。「主イエスのこと、そして主イエスに結ばれた人！」流れのほとりに植えられた木とは、第一義的にはイエス様のことであり、そしてイエス様に結ばれている私自身のこと、その時そのように確信したのでしょうか。改めてこの箇所を読み、自分がいかに幸いな者か、あれこれと思い巡らしました。イエス様は聖霊によって誕生し、数々の奇跡や癒しをなし、十字架の闇を通り抜け、復活し、救いの御業を成し遂げられました。イエス様と共にあったダイナミックな聖霊！この聖霊の流れのほとりに私もまたあるのだ、そのような自覚がよみがえってきました。主の裂かれた御体を食べ、流された御血を飲み、私の体と心の隅々まで主の命が浸透し、主と結ばれているからです。下掲のみ言葉もそのことを教えています。だから私もダイナミックな聖霊の場とされている！そう思うと、じわ~と心の底から力が湧いてきて、託されている務めに向かうことができます。



今 70 歳の旅立ちに当たり、「流れのほとりに植えられた木」「ダイナミックな聖霊の場としての私」この信仰的自覚を日々持ち続け、横手教会に仕えていこうと思います。今後とも長老はじめ教会員の皆さんのお祈り・お支え、家内共々宜しくお願い申し上げます。

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。」(I コリント 6:19~20)